

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakamiwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成15年 1月

病害虫防除技術情報

No.14 - 4

岩手県病害虫防除所

初発時の発病葉摘葉によるきゅうり斑点性病害の耕種的防除

きゅうりの褐斑病・炭そ病・黒斑病の斑点性病害は、一度発病すると蔓延しやすく、薬剤による防除だけで抑えることは困難であり、蔓延すると早期に枯れ上がる。

斑点性病害は、初発時に発病葉を摘葉することにより、発病を抑制し蔓延を遅らせることが可能であった。

初発時の摘葉が遅れた場合でも、発病葉を摘葉することにより、新たな展開葉への発病を抑制する事例がみられた。

1. 主な斑点性病害とその被害

きゅうりの褐斑病・炭そ病・黒斑病は、その病徴が似ているため目視による区別が難しく、発病した株を中心に発病が広がっていく病気の広がり方も似ている。また、これらの病気は混在して発生する傾向があり(図1)、発病が蔓延すると株全体が枯れ上がり、栽培が早期に終了する要因の一つとなっている。

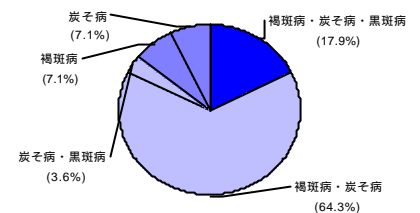


図1 斑点性病害の発生状況(H14巡回調査28地点中)



褐斑病



炭そ病



黒斑病

2. 初発時の摘葉効果

褐斑病の初発を確認した圃場において、発病葉の摘葉の有無による発病の広がりを調査した。

(1) 実証内容

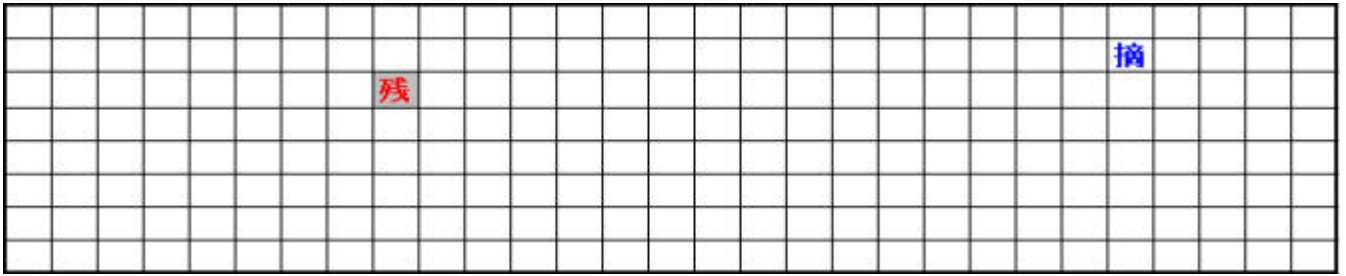
- 1) 実証場所 江刺市広瀬現地圃場(例年多発圃場)
- 2) 耕種概要 品種(パイロット2号) 定植時期(7月上旬)
- 3) 設置日及び摘葉日 8月4日(初発確認時。発病葉を摘葉した株と残した株を設置)
- 4) 調査期間 8月4日～8月31日 7日おき
- 5) 調査方法 株あたりの発病葉数
- 6) 薬剤防除 農家慣行による

(2) 結果

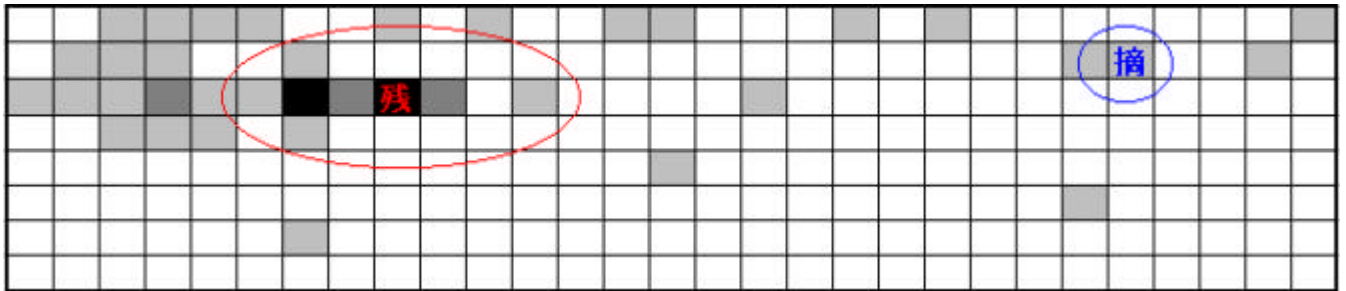
発病葉を残した株からは、隣接した周辺の株へ発病が急激に広がり、中～下位葉へ病斑が散在してみられた。その後、時間の経過とともに発病が広がった株へ隣接する株へも発病がみられるようになった。その結果、初発株は枯れ上がり、その株を中心に広範囲に発病が見られた。

一方、発病葉を摘葉した株では摘葉後に発病がみられたものの、周辺株への発病の広がりはほとんどみられなかった(図2)。

初発時



摘葉 7 日後



摘葉 14 日後

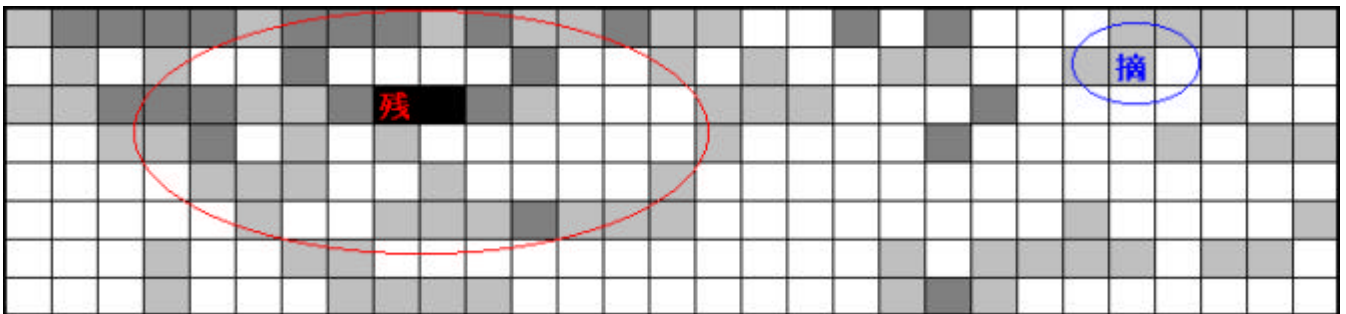
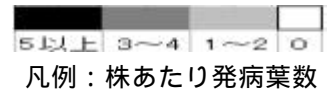


図2 褐斑病の初発時摘葉圃場における発病葉の経時的広がり（模式図）
（マス目：きゅうり1株、摘：発病葉を摘葉した株、残：発病葉を残した株）



< 現地事例 > 発病が進んだ場合における発病葉の摘葉効果

褐斑病の発病が進んだ場合においても、発病葉を摘葉した方が新たな展開葉への発病が少なかった。

事例場所および耕種概要 江刺市米里（例年多発圃場） 品種（T-47） 定植時期（5月22日）

摘葉時期および薬剤防除 8月9日（発病葉率80%。発病葉全摘区と無摘葉区） 農家慣行による

結果 薬剤による防除が行われている中、摘葉7日後には、摘葉しなかった場合より摘葉した方が新たな展開葉への発病が半分以下に抑えられた（図3）。また、摘葉を実施した農家によると「摘葉前は、褐斑病が蔓延し、枯れ上がってしまうかと思ったが、思い切って発病葉を摘葉したら、その後、新たな葉が展開してきたので（写真）、再び栽培する意欲が出たし、収穫期間も例年よりも延びた。」とのことであった。

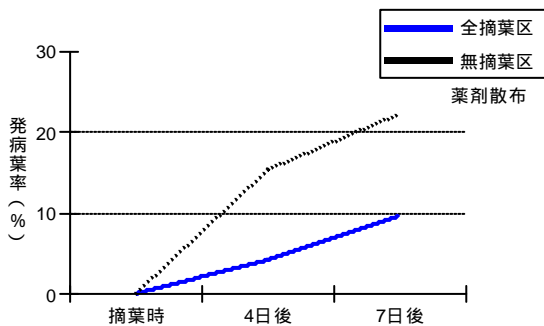
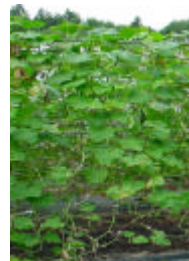
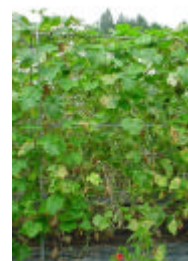


図3 摘葉後の新たな展開葉での発病推移



全摘葉



無摘葉

写真 発病の様子（摘葉14日後）